

4. 京都大学附属図書館「富士川文庫」と 安藤昌益研究

石渡 博明

安藤昌益の会事務局長

「忘れられた思想家」安藤昌益は、戦前は一部で実在が疑問視さえされていた謎の人物で、戦後も1950年に青森県八戸市で実在を裏付ける資料が見出されたものの、生没年・生没地は依然として謎のままだった。それが1974年、秋田県大館市二井田の一関家から昌益の晩年に関する資料が見出され、曹洞宗温泉寺に墓と過去帳が確認され、死没年月日(宝暦12年10月14日)と戒名が確認されるようになった。さらに火災によって文献資料は残らないものの、二井田の旧家・安藤家に伝わる口伝伝説や昌益没後に農民たちが建立した顕彰碑の写し等との照合から生誕年(1703年)が確定し、安藤家が生家であることも判明するようになってきた。

一方、昌益の生業が医師であること、高弟の神山仙確が八戸藩の側医であったことは、発見者・狩野亨吉が夙に言及していたところであるが、昌益の遺稿全集ともいべき稿本『自然真営道』全101巻のほとんど89巻が、東京帝国大学図書館に買い取られると間もなく関東大震災によって灰燼に帰し、昌益の医学論も処方も永遠に目にするのできない「幻の医学」になってしまった。そのため、昌益の思想は封建制一階級社会に対する苛烈な批判と農業を基礎とする世直し論の紹介が中心で、社会思想家としての位置付けが一般的であった。

そうした昌益像であったが、近年は生業である医師としての役割を踏まえた「いのちの思想家」として大きく修正が加えられてきている。そのことを促したのが、京都大学附属図書館「富士川文庫」に架蔵されていた昌益の医学論と処方についての写本『真齋謾筆』および『神医天真論』『自然精道

門』と、錦城口授の『医真天機』の存在である。

これら資料の発見者は千葉県元高校教諭・山崎庸男氏であり、本発表は山崎氏がなされるのが筋ではあるが、その後の新資料の発見などもあり、昌益研究の全国ネットワーク「安藤昌益の会」事務局長の石渡から報告させていただいた。安藤昌益研究における「富士川文庫」の役割ないし貢献としては、①伝記研究の促進、②昌益医学(真営道医学)研究の促進、③昌益思想の深化の促進、の三点が挙げられる。

まず、①についてであるが、『神医天真論』と『自然精道門』については未だ筆録者が解明できていないが、『真齋謾筆』については、本文中の書き込みにより「真齋」の名が「博」であることが推定され、『医真天機』の著者が「錦城」と名乗る奥南部の医師で、ともに昌益医学の継承者であると見られた。そのため、昌益研究者の間では昌益医学の継承者への関心が高まり、「錦城」とは浅田宗伯の『皇国名医伝』にも伝記が載せられた江戸下町の隠れた名医「川村寿庵」であること、また「真齋」とは寿庵の息子、「博」こと「川村真齋」であることが判明した。さらに07年には、京都大学文学部所蔵の内田銀蔵未公開資料の中から、稿本『自然真営道』の旧蔵者、千住の橋本律蔵の備忘録が見出されるなどして、安藤昌益—川村寿庵—川村真齋—橋栄徳こと橋本律蔵という師承関係が確認されるに至ったのである。

次に②の昌益医学そのものについてであるが、八戸藩の記録から、昌益が町医者でありながら藩命で藩の賓客の治療に当たり完治したことや、浅田宗伯の『方函』に「安藤昌益伝」の「安肝湯」が記載されていたこと等から、臨床の腕が優れて

いたであろうことが以前から推定されていた。また、『統道真伝』や稿本『自然真営道』の別系統の写本「人相巻」から、友吉唯夫により昌益の排卵周期説が萩野久作に150年も先立つ独創的なものであったこと、岡田靖雄により昌益の精神医学が「わが国の独自の精神医学の鼻祖」として評価されるなど、医学理論の上でも優れたものであった旨が指摘され、また『自然精道門』の分析から、浅野弘毅・近藤等によって昌益の夢論がフロイドの『夢判断』に先立つこと150年の刮目すべき業績であることが指摘されていた。

そればかりではなく、『真斎謾筆』が関東大震災で焼失してしまった「幻の医学」一稿本『自然真営道』本書分の抄録写本であったことから、『安藤昌益全集』の編集代表・寺尾五郎により、昌益

医学の全体系が、「本道」を中心とした伝統医学3000年の体系をコペルニクス的に転換させた「いのち」の誕生・育成・保全に関する新たな医学体系の創造であった旨が解明された。

こうした昌益医学の解明・評価に基づき、③として、昌益の全思想体系が単なる社会思想ではなく、「いのち」を生産する農民の子として、また「いのち」を預かる医師として、医一食一農を核とする壮大な「いのちの思想」であることが再確認されるようになってきた。

以上、見てきたように、この間の安藤昌益研究の目覚ましい進展は「富士川文庫」の存在を抜きに語るができない。富士川游氏の学恩に改めて感謝の言葉を申し述べ、結びとしたい。